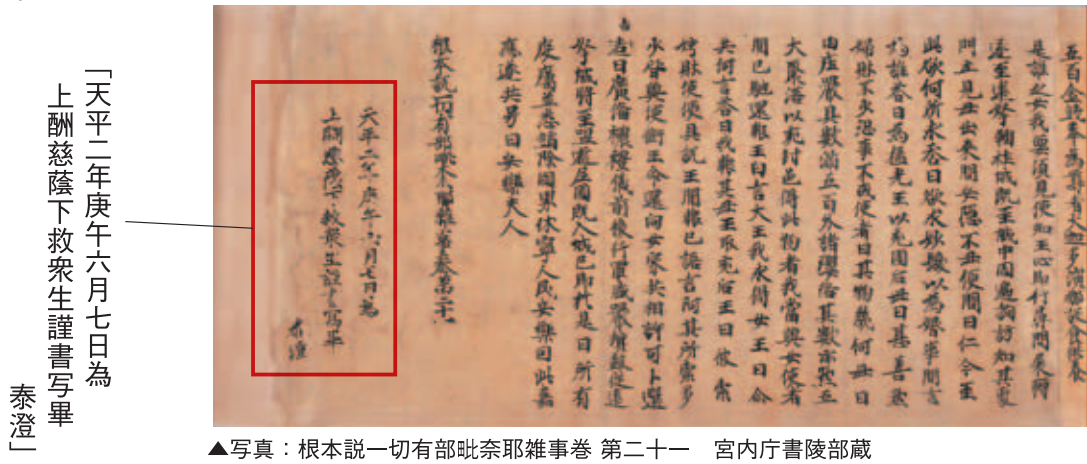


西 暦		和 暦		主な出来事と紀年銘資料の年代	
57				倭の奴国王、後漢に貢物を送り、金印を授けられる。〔『後漢書』東夷伝〕	
184～9				「中平□年」銘 環頭太刀（奈良県東大寺山古墳出土）	
239				倭の邪馬台国女王卑弥呼、魏に使者を送り、銅鏡100枚などを授かる。〔『魏志』倭人伝〕	
239				「景初三年」銘 三角縁神獸鏡（島根県神原神社古墳出土）	
414				高句麗で好太王碑（広開土王碑）が建てられる。	
421				倭王讃、宋に貢物をおくる。以後、倭の五王による朝貢が続く。〔『宋書』倭国伝〕	
443？				「癸未年」銘 人物画像鏡（和歌山県隅田八幡神社蔵）	
471				「辛亥年」銘 金象嵌鉄剣（埼玉県稲荷山古墳出土）	
5世紀後半				銀象嵌鉄刀（熊本県江田船山古墳出土）	
538				仏教が公伝する〔『上宮聖徳法王帝説』〕。（552年説もあり）	
607	推古15年			小野妹子、隋に使わされ（遣隋使）、翌年隋の使者・裴世清とともに帰国。	
618	推古26年			中国で隋が滅亡し、唐が興る。	
620	推古28年			『天皇記』・『国記』が編纂される。	
630	舒明2年			犬上御田歊、唐に遣わされる。（第1回遣唐使）	
645	大化元年			中大兄皇子・中臣鎌足らが蘇我蝦夷・入鹿を滅ぼし、政治改革を行う。（大化の改新）	
7世紀中頃				難波宮跡出土木簡（現存する日本最古の万葉仮名文を書いた木簡）	
670	天智9年			はじめて全国的に戸籍をつくる。（庚午年籍）	
672	天武元年			壬申の乱	
682	天武11年			泰澄、足羽郡麻生津で誕生する。〔「泰澄和尚伝記」〕	
684	天武13年			真人・朝臣・宿禰・忌寸・道師・臣・連・稻置の八色の姓を制定。	
689	持統3年			飛鳥浄御原令が公布される。	
692	持統6年			越前国司、白蛾を献上する。（「越前」の初見）〔『日本書紀』〕	
694	持統8年			藤原京へ遷都	
701	大宝元年			大宝律令が公布される。	
702	大宝2年			各地で戸籍が作られる。	
708	和銅元年			武蔵国から銅が献上され、和同開珎が作られる。	
710	和銅3年			平城京へ遷都	
712	和銅5年			太安万侶、『古事記』を編纂する。	
717	養老元年			泰澄、白山に登頂し十一面観音を感得する。〔「泰澄和尚伝記」〕	
718	養老2年			越前国の羽咋・能登・鳳至・珠洲4郡を割いて、能登国を置く。	
720	養老4年			舍人親王ら、『日本書紀』を編纂する。	
721	養老5年			各地で戸籍が作られる。	
720年代				このころ長屋王家木簡	
729	天平元年			長屋王の変	
730	天平2年			泰澄が「根本説一切有部毗奈耶雜事 卷第二十一」を書写する。	
735	天平7年			玄昉が経論五千巻の一切経を携え帰朝する。	
740	天平12年			光明皇后が発願した一切経が書写される。（光明皇后御願経・五月一日経）	
741	天平13年			諸国に国分寺・国分尼寺建立の詔を出す。	
743	天平15年			聖武天皇が盧舎那仏金銅像（大仏）造立を発願。	
745	天平17年			平城宮跡出土木簡「越前国丹生郡曾博郷…波奈佐久…」	
752	天平勝宝4年			東大寺大仏開眼供養会が行われる。	
754	天平勝宝6年			鑑真が来朝する。	
755	天平勝宝7年			六人部東人が発願した一切経が書写される。（「大唐内典録 卷第九第十残巻」根津美術館蔵）	
764	天平宝字8年			恵美押勝（藤原仲麻呂）の乱	
766	天平神護2年			足羽郡道守村、坂井郡高串村の開田図が作られる。 生江東人、阿須波束麻呂らが弁明書を書く。	
784	延暦3年			長岡京へ遷都	
785	延暦4年			三国真人広見、佐渡に配流される。〔『続日本紀』〕	
792	延暦11年			西大寺食堂院跡出土木簡「西大寺赤江南莊」「赤江北莊」	
794	延暦13年			平安京へ遷都	
801	延暦20年			越前国、牛を殺して神（漢神）を祭ることを禁じる。〔『類聚国史』〕	
804	延暦23年			最澄と空海、遣唐使の一員として唐に渡る。	
823	弘仁14年			越前国の江沼・加賀2郡を割いて加賀国を立てる。	
849	嘉祥2年			加賀郡勝示札（石川県加茂遺跡出土）	
894	寛平6年			菅原道真の建議により遣唐使が中止される。	

三.越の大徳 泰澄大師と文字

泰澄は越前国足羽郡麻生津の生まれ。越知山で修行し、霊峰白山を開山した奈良時代の僧である。泰澄は観音信仰を奉じて諸国を行脚し人々を救済したとされ、越前を中心とする全国各地にその開山伝承を持つ社寺が存在している。

ここでは天平二年(730)に「泰澄」が書写したとの奥書がのこる法隆寺旧蔵の経典を紹介する。この「泰澄」が越前の泰澄かどうかについてはまだ断定できないが、その奈良時代の筆跡に、泰澄の俳を感じることはできるのではないだろうか。



▲写真：根本説一切有部毗奈耶雜事卷 第二十一 宮内庁書陵部蔵

四.考古学が語る古代の文字

(一) 平城京跡出土木簡に見る都の暮らしと越前とのつながり

木簡とは墨で字を書き込むために使われた短冊状の木製品のこと。日本では律令制がはじまった7世紀から多く見られるようになる。特に平城京・長岡京など都城の遺跡の発掘調査で多く見つかっているが、近年は地方の古代の役所跡や寺院跡などからも相次いで見つかっている。当時は文書を書くのに紙も使われていたが、木簡は不要になれば何度でも表面を削って再利用できるという利点から、日常的にやり取りされる文書や字の練習などに多用された。また木簡は紙に比べて耐久性があるので、地方から運ばれる荷物の荷札などにも多用されていた。地方の古い地名や、当時の特産品目を知ることが出来る資料となっている。

写真：平城京跡出土木簡 平城京左京三条二坊六坪宮跡庭園出土 奈良文化財研究所蔵▶

裏…北宮御物儀□



表…阿須波里□

(二) 古代のお触れ書き 加賀郡勝示札

石川県加茂遺跡からは平安時代の勝示札＝「お触れ書き」が出土している。平安時代前期の嘉祥年間(848～851)に、加賀郡役所から出された文書を木札に転写して掲示したもので、農業の奨励に関わる命令や禁止事項が書かれている。文中には「路頭に勝示せよ」と書かれているが、当時このような行政的な漢文を読めた民衆はほとんどいなかったと考えられ、むしろ「口示」とあるように、口頭での伝達・指導が主であっただろう。人々にとってこのお触書は内容を読むものではなく、権威の象徴として感受するものであったと思われる。



▲写真：加茂遺跡出土 加賀郡勝示札（復元品） 石川県埋蔵文化財センター蔵

(三) 瓦に刻まれたいにしえ人の名前と顔

佐渡国分寺跡から出土した軒丸瓦の破片で、その表面に文字と人物画像がへう書きされている。人物画は、頭部に冠をかぶり手に笏をとる像で古代の律令官人を描いたものであろう。画像の左には「三国真人」と書かれ、この人物の名前を示していると思われる。三国真人は、坂井郡三国付近を本貫地とする豪族である。奈良時代には畿内に居住し、官人として朝廷に仕える者もあり、中央と地方の両方で活躍した一族であった。なお、三国真人と佐渡とのつながりを示す人物として、『続日本紀』の延暦四年(785)に佐渡に配流されたとの記述がある三国真人広見が実在するが、この瓦の人物画像と関係するかどうかは謎である。



▲写真：佐渡国分寺跡出土 文字人物戯画瓦 佐渡市教育委員会蔵

(四) 越前から出土した文字

墨書土器とはその名の通り焼成後の土器に墨で文字を書いたもので、特に奈良時代から平安時代の前期にかけて盛行した。墨書の内容は、人名、職名、地名、施設名、吉祥句などである。墨書の目的はまだはっきりしないところも多いが、全国的に見ると都城や官衙跡から出土したものは土器の流通・保管・使用などを目的として書かれたものが多く、集落遺跡出土の墨書土器は、祭祀を想起させるものが多い傾向にある。



写真：高柳遺跡出土 墨書土器「生江」 福井市教育委員会蔵▶

関連行事	見どころ講座「東大寺領荘園関係文書を読む」 日時：4月15日(日) 午後2時～ 講師：角鹿 尚計（当館学芸員）	学芸員によるギャラリートーク （展示解説）
	講演会「平城宮木簡を読む」 日時：4月28日(土) 午後2時～ 講師：馬場 基さん（奈良文化財研究所主任研究員）	日時：3月24日(土) 5月3日(木)祝 両日とも午後2時～ 定員：自由参加 （ただし特別展の観覧券が必要）
	両日とも 定員：60名（聴講無料、当日受付）	

『展示解説シート No.65』
平成24年3月23日発行
福井市立郷土歴史博物館
〒910-0004 福井市宝永3丁目12-1
電話 0776-21-0489
Fax 0776-21-1489
担当：角鹿尚計・松村知也・藤川明宏
印刷／小川印刷